

氏 名 能町 しのぶ
 学位の種類 博士（看護科学）
 学位記番号 博甲第 7816 号
 学位授与年月 平成 28 年 3 月 25 日
 学位授与の要件 学位規則第 4 条第 1 項該当
 審査研究科 人間総合科学研究科
 学位論文題目 母親の自尊感情とその関連要因の研究
 ー妊娠糖尿病妊婦における検討ー

主	査	筑波大学教授	博士(医学)	高田	ゆり子
副	査	筑波大学准教授	博士(保健学)	柴山	大賀
副	査	筑波大学准教授	博士(保健学)	三木	明子
副	査	筑波大学教授	博士(医学)	濱田	洋実

論文の内容の要旨

(目的)

先行研究から母親の自尊感情の低下は母児の健康に影響することが明らかにされている。妊娠糖尿病妊婦では母親としての自尊感情の低下が予測され、出産後の母児の健康に影響を与える可能性がある。しかし、妊娠期の母親の自尊感情を評価する尺度は存在せず、妊娠糖尿病妊婦の母親としての自尊感情は明らかにされていない。そこで、本研究では、研究 1 として、妊娠期の母親の自尊感情尺度を作成し信頼性と妥当性を検証する、研究 2 として、妊娠糖尿病妊婦の母親としての自尊感情とその関連する要因を明らかにすることを目的とした。

(対象と方法)

【研究 1】 Shea & Tronick(1988)の The Maternal Self-Report Inventory と妊娠期の母親役割に関する文献を参考に、6 因子 31 項目から成る妊娠期の母親の自尊感情尺度原案を作成した。そして、妊婦健康診査受診のため産科施設に通院している 18 歳以上の妊娠 12～40 週の妊婦を対象に自記式質問紙調査を実施した。さらに尺度の安定性の検証のために、初回調査から 1 週間後に再テストを実施した。調査時期は 2015 年 1 月～9 月であった。

【研究 2】妊娠糖尿病と診断された診断 1 か月以内の 18 歳以上の妊婦 93 人を対象に、妊娠期の母親の自尊感情尺度、ソーシャルサポートスケール、Prenatal Attachment Inventory : PAI 日本語版、State Trait Anxiety Inventory : STAI 状態不安、Edinburgh Postnatal Depression Scale : EPDS、Brief-Type Self-Administered Diet History Questionnaire : BDHQ を用いて、2015 年 3 月～9 月に調査を行った。

(結果)

【研究 1】442 人の妊婦に調査票を配布し 413 人から回収した(回収率 93.4%)。そのうちの記入漏れを除く 395 の調査票を分析した(有効回答率 95.6%)。1 週間後の再テストは 60 人を対象に実施し 43 人から回答を得た (回収率 71.6%)。因子分析 (最尤法、プロマックス回転) の結果、[母親になる自信がある] 10 項目、[子どもを健康に育てることができる] 8 項目、[母親になることを受容できる] 4 項目が抽出され、最終的に 3 因子 22 項目が抽出された。再テスト法において、テスト-再テストの相関係数は各項目 $r = .34 \sim .75$ 、各因子間 $r = .78 \sim .81$ の有意な正の相関が認められた。Cronbach's α はテスト時 $\alpha = .83$ 、再テスト時 $\alpha = .89$ であり、本尺度の信頼性と安定性は担保された。また、[母親になる自信がある]はローゼンバーグ自尊感情尺度と中程度の相関が確認され、[子どもを健康に育てることができる] は母性不安尺度と中程度の正の相関が認められ、併存的妥当性が示された。さらに、初産婦、周産期合併症がある妊婦において、母親の自尊感情は有意に低いことが示され、予測妥当性が担保された。よって、本尺度は、妊娠期の母親の自尊感情を評価する尺度として、信頼性と妥当性を有する尺度であることが確認された。

【研究 2】妊娠糖尿病妊婦 93 人に調査票を配布し 78 人から回答が得られた(回収率 83.9%)。そのうち調査票に記入漏れのあった 2 人を除外し、76 人を分析した。その結果、妊娠糖尿病妊婦は[子どもを健康に育てることができる]得点が有意に低いことが示された。さらに [子どもを健康に育てることができる]の関連要因について、重回帰分析を行った結果、年齢と経産歴が関連していた。[母親になる自信がある]は、胎児愛着、状態不安、両親と友人のサポートが関連していた。また [母親になることを受容できる] は両親と夫のサポートが関連していた。

(考察)

妊娠糖尿病妊婦の母親としての自尊感情が低いことは、妊娠糖尿病妊婦は児の健康への不安や母親自身の将来の糖尿病発症への不安を持つという先行研究の結果より、妊娠糖尿病妊婦の児の健康への不安が、[子どもを健康に育てることができる]得点を下げていることが示唆された。また、年齢や経産歴が[子どもを健康に育てることができる]に関連していることは、経産婦はこれまでの出産育児の経験から子どもの健康状態に対する不安が軽減すること、一方年齢は、高齢妊婦の場合、胎児の遺伝学的異常の発症率が高く、胎児の健康状態を脅かす等の理由から関連していることが示唆された。[母親になる自信がある]が低いことは状態不安を高めることが示唆され、疾患に対する過度な不安は、母親としての自信を低下させ、妊娠に対する積極的な姿勢を妨げるという先行研究の知見から、妊婦の不安の内容や程度を看護職者が把握し不安の軽減に努めることが重要であることが推察された。また、両親や友人などのサポートの認知が[母親になる自信がある]の関連要因であったことは、妊婦にとって実母のサポートの重要性は先行研究においても報告されており、里帰り分娩の風習がある日本では、実母は妊婦の食事などの日常生活のサポートと、出産後育児行動を実践する上での経験者、手段的サポートとして重要であると考えられる。妊娠糖尿病妊婦が食事療法を妊娠期間中継続して実践していく上で、食事面をサポートする実母の理解と協力は不可欠である。そのため、妊娠糖尿病妊婦では、妊婦本人だけでなく、夫や実母など家族に対してもアプローチすることで、母親の自尊感情が高まることが期待できると考える。[母親になることを受容でき

る]では、夫のサポートが重要であるという先行研究から夫婦が親になることを共有することの重要性が示唆された。

審査の結果の要旨

(批評)

本研究は、自尊感情のなかでも母親としての自尊感情に着目し、研究1で妊娠期の母親としての自尊感情尺度(3因子22項目)を開発し、研究2でその尺度を用いて妊娠糖尿病妊婦の母親としての自尊感情とその関連要因を明らかにした研究である。その結果、妊娠糖尿病妊婦の妊娠期の母親としての自尊感情は合併症のない妊婦に比べて低いこと、関連要因は年齢、経産歴、状態不安、胎児愛着、両親・夫・友人のサポートという知見を導き出している。そして、尺度開発における今後の課題についても示されている。

本研究で明らかになった妊娠糖尿病妊婦の妊娠期における母親としての自尊感情とその関連要因は、今後増加が予想される妊娠糖尿病妊婦の出産後の母児の健康を支援するための知見として有用であることから、本論文は価値のある研究と考えられる。

平成28年1月27日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士(看護科学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。